日本と中南米

「共に発展・主導・啓発」を
目指すパートナー

JAPAN - LATIN AMERICA and THE CARIBBEAN

外務省

JAPAN LATIN AMERICA and THE CARIBBEAN

Introduction イントロダクション
Profile プロフィール

LATIN AMERICA & THE CARIBBEAN

自然、文化、そこに生きる人々 ——
すべてが奥深い中南米のプロフィール

6億人の人口を有する中南米。一昔前は、政変や債務危機が絶えない地域でしたが、1990年代以降、民主主義・市場経済の定着とともに、安定的発展を続けています。過去10年間で地域33か国の国内総生産（GDP）の合計は約1.3倍になり、ASEAN（東南アジア諸国連合）の約2.2倍の規模です。また、資源・食料・エネルギーの供給地としても重要性が高まっており、例えばブラジルは鶏肉、チリは銅において日本にとり第一位の輸入先です。経済成長に伴い、中南米地域は近年国際舞台での発言力も高めています。中南米諸国の中には、気候変動や核軍縮といった国際社会が直面する問題において日本の重要なパートナーも存在します。このように成長著しい中南米は、約210万人以上の日系人の存在もあり、世界でも有数の親日的な地域です。日本は、中南米の安定的な発展を支援するため、中南米における貧困削減や格差是正に協力しています。

CUBA キューバ

【主要言語】スペイン語
【人　　口】1,148万人
【総 面 積】11.0万km²

ユネスコ文化遺産の旧ハバナ市街、夕陽に彩られたマレコン通り、波光煌めくバラデロ海岸等から「カリブ海の真珠」と言われ、音楽、芸術、スポーツ等も盛んです。日本とキューバの最初の交流は、1614年、ヨーロッパへ行く途中にハバナに上陸した慶長遣欧使節団（支倉常長一行）と言われています。

SICA 中米統合機構（Sistema de la Integración Centroamericana）

【主要言語】スペイン語（ベリーズは英語、スペイン語等）
【人　　口】5,892万人
【総 面 積】57.1万km²

グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ、ベリーズ、ドミニカ共和国

北米と南米に挟まれた地域。地勢、民族、文化とも多彩ですが、地域統合を目指しています。コーヒーの産地として有名で、太平洋と大西洋を結ぶパナマ運河が通っています。

MEXICO メキシコ

【主要言語】スペイン語
【人　　口】1億2,916万人
【総 面 積】196.4万km²

経済規模は世界15位（2017年）。マヤ、アステカ文明など35を数える世界遺産の宝庫です。日本とも400年を超える交流の歴史があり、2005年に発効した経済連携協定（EPA）により、日本との経済関係が緊密化しています。

CHILE チリ

【主要言語】スペイン語
【人　　口】1,805万人
【総 面 積】75.6万km²

日本と同じく南北に細長く、銅、モリブデン、リチウムなどの豊富な鉱物資源、魚介類やワインなどの農林水産資源のほか、イースター島のモアイ像などでも知られる国です。経済政策では自由貿易を推進し、2018年時点で60か国以上と自由貿易協定を締結しています。2007年には日本と経済連携協定（EPA）を締結しました。

COLOMBIA コロンビア

【主要言語】スペイン語
【人　　口】4,907万人
【総 面 積】114.2万km²

カリブ海と太平洋に挟まれ、アンデス山脈とアマゾンの大自然、豊かな天然資源に恵まれています。長年の課題とされてきた国内紛争や治安問題が近年改善しており、経済活動も活発になっています。

PERU ペルー

【主要言語】スペイン語
【人　　口】3,217万人
【総 面 積】128.5万km²

有名なマチュピチュ遺跡をはじめとする世界遺産の宝庫です。中南米で初めて日本と国交を樹立し、南米で最も古い日本人移住の歴史を有する国です。また、APEC、TPPにも参加するなど、環太平洋地域にも目を向けています。2012年には日本との経済連携協定（EPA）が発効しました。

CARICOM カリコム（カリブ共同体）

【主要言語】英語、フランス語、オランダ語
【人　　口】1,827万人
【総 面 積】46.3万km²

アンティグア・バーブーダ、ガイアナ、グレナダ、ジャマイカ、スリナム、セントクリストファー・ネーヴィス、セントビンセント及びグレナディーン諸島、セントルシア、ドミニカ国、トリニダード・トバゴ、ハイチ、バハマ、バルバドス、ベリーズ

珊瑚礁と青い海、白い砂に囲まれ、美しい自然と温暖な気候、数多くあるビーチリゾートで有名な観光地です。また、世界的なカーニバルやスティールパン、レゲエ音楽など文化も多彩です。

VENEZUELA ベネズエラ

【主要言語】スペイン語
【人　　口】3,198万人
【総 面 積】91.2万km²

世界第1位の原油埋蔵量を有する世界有数の産油国であり、経済は石油収入に大きく依存しています。コナン・ドイルの小説「失われた世界」で有名なギアナ高地や、世界一の落差を誇るエンジェルの滝など、雄大な自然にも恵まれています。

BRAZIL ブラジル

【主要言語】ポルトガル語
【人　　口】2億929万人
【総 面 積】851.5万km²

BRICSの一角をなす中南米一の大国で、GDPは世界第8位、約200万人といわれる世界最大の日系社会を有しています。また、豊富な資源と高い食糧生産力を誇るほか、航空機産業などが発達した工業国でもあります。

ARGENTINA アルゼンチン

【主要言語】スペイン語
【人　　口】4,427万人
【総 面 積】278.0万km²

ヨーロッパ文化の影響が色濃い首都ブエノスアイレスを中心に、大草原パンパやアンデス山脈など多様な自然に恵まれた国で、農業・牧畜が盛んです。また、タンゴやサッカー、ワインでも有名です。

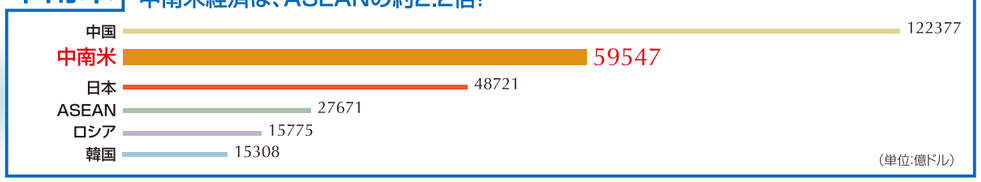
1人あたり GNI（国民総所得）

	6,000超
	6,000以下
	4,000以下
	2,000以下
	1,000以下
	不明

（単位：米ドル）

データで見る 中南米

GDP（国内総生産）で見ると、中南米経済は、ASEANの約2.2倍!



出典：世界銀行 World Development Indicators 2017年

CONTENTS

1 自然、文化、そこに生きる人々 ——すべてが奥深い中南米のプロフィール
3 日本と中南米 —— SPECIAL FEATURE
5 世界の中の中南米 —— データが語る中南米の「実力」
7 日本と中南米 —— 人と人の交流をもとに成熟した歴史的友好関係
9 中南米地域の特徴・日本の政策方針 ——歴史的転換期にある中南米の今と日本の政策方針
11 日本の政府開発援助 —— 着実に成果を上げている政府開発援助の主要な実例
13 文化・芸術 ——中南米の横顔紹介

「日本と中南米の架け橋になりたい！」

魁聖一郎

ブラジルと日本の架け橋になる。

2006年に来日し、友綱部屋に入門してから今日まで毎日命をかけて相撲の稽古をしています。人生を通して相撲に関わりたいと思い、2014年には日本国籍も取得しました。ブラジルでは、週1回程度、子供から大人まで10名ぐらいが通う道場で練習し、試合にも出場していましたが、趣味で相撲を取っていた当時と比べて、日本ではプロの力士となり、相撲に対する意識は180度変わりました。

日本で生活を始めた頃、特に苦労したのは、上下関係や言葉遣いでした。ブラジルには日本のように先輩、後輩などの概念が無く、自分は日本語もほとんど話せなかったので、最初は戸惑いました。特に敬語は難しく感じましたね。ただ、同じ部屋の先輩や仲間がきちんと教えてくれたので、今ではこうしたことも当たり前のことになりました。

子供の時から、おばあちゃんにようかんなど日本のお菓子を買ってもらって食べるのが楽しみで、日本での生活は夢でした。また、「ドラゴンボール」、「幽遊白書」、「るろうに剣心」、「聖闘士星矢」など日本のアニメが大好きでした。ただ、日本に来たらアニメを毎日見ようと思っていたのに、実際に来てみると稽古などで忙しくて、なかなか見ることができないことが残念です（笑）。また、アニメは日本語で見た方がおもしろいので、その意味でも日本語を勉強して良かったと思います。

ブラジルと違って、自動販売機でどこでも飲み物が購入できる日本は、未来の国のようで毎日を楽しく過ごしています。ただ、寒いのが苦手なので、冬になると特にブラジルが懐かしくなりますね。子供時代はほとんど都心のサンパウロから出たことはありませんでしたが、ブラジルは都市周辺でも少し郊外に出ると自然の中でリラックスできる場所が多くありますよ。

また、母の作るブラジル料理が大好きで今でも食べたくなります。ブラジル料理は基本的に塩こしょうの味付けが多く、日本のように砂糖を使った甘い料理はありません。シュラスコと母の作るレモンタルトが特に好きです。最近は、日本にシュラスコレストランも増えているので、ぜひ食べてみてくださいね。

ブラジルにいた時は、日本人は、「無口」、「コミュニケーションが苦手」、「まじめ」、「みんな頭が良い」というイメージを持っていましたが、日本で生活してみると明るい方が多く驚きました。ただ、ブラジル人は初対面から友達のような感覚で接しますが、その点は、日本人との違いを感じ、そこがブラジル人の良さだと感じます。

相撲の人気は最近また高まっているように感じますが、日本の若い方にももっと相撲を見て欲しいと思います。ブラジルと日本の架け橋としてがんばっているので、ぜひ応援してください。

（2016年3月インタビュー）

写真提供:日本相撲協会

魁聖一郎（かいせい いちろう）（大相撲力士）
ブラジル生まれの日系3世。2014年に日本に帰化。
友綱部屋所属。

message メキシコ中央部地震

深まる日本とメキシコの絆

現地時間2017年9月19日（日本時間9月20日）にメキシコ中央部で発生したマグニチュード7.1の非常に強い地震により、首都メキシコシティーを含む広域にわたり被害が発生しました。被災各所では建造物が倒壊・一部損壊し、道路も各所で寸断するなど、多数の市民が避難生活を余儀なくされました。ちょうど32年前の1985年9月19日に、首都を中心に1万人以上が死亡したメキシコ大地震が起きたことから、32年前の大地震にちなんで救助避難訓練がメキシコシティーで行われている最中に今回の地震は起こりました。

メキシコと日本は世界有数の地震国という共通点があり、ここ数十年の間にも、1985年のメキシコ大震災、1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災など、大きな地震が起こった際には、お互いに迅速な支援を行ってきました。

今回の地震の際にも、メキシコ政府の要請に基づき、日本政府は9月21日（日本時間）に国際緊急援助隊・救助チームを派遣し、72名の隊員が現地時間同日からメキシコシティー中心部の被災地計3か所において、メキシコの救助隊や他国の国際救助隊とともに捜索・救助活動を実施しました。

日本のチームに対する期待は大きく、25日（現地時間）までの5日間、一刻を争う中で、少しでも多くの命を救おうとほとんど休むことなく捜索救助活動が続けられました。ご遺体に隊員が敬意を表した姿や、倒壊した建物の中で身動きがとれなくなっていた小型犬を救助した様子も、SNSなどで大きな感動を持って伝えられました。捜索救助活動を続ける隊員の献身的な姿を目の当たりにした現地住民たちが日本語で感謝の言葉を告げる場面や、活動最終日の25日、現地の人々が「どうもありがとう！」とお辞儀をしながら隊員への感謝を伝えるシーンも見られました。

在メキシコ日本国大使館はSNSを通じて、国際緊急援助隊の活動をタイムリーに伝え、また「苦難の時の友は真の友（Amigos en la Adversidad, Amigos de Verdad）」などのメッセージを発信しました。「いいね！」などの好意的反応は424万件（2017年9月末時点）を記録し、多数の現地メディアでSNSの写真・動画・記事が引用されたほか、SNSを通じて、メキシコ国民からの感謝及び隊への励ましのメッセージが多数寄せられました。また、活動終了後に団長がスペイン語で発信したメッセージは、現地の人々を励まし、長い間はぐくまれてきた日本とメキシコの間の絆を感じることができました。

2018年は日本とメキシコの間に外交関係が樹立されてからちょうど130周年にあたり、近年では要人の往来も活発化しています。また、首脳会談や外相会談などハイレベルでの会談も頻繁に行われており、両国の関係はこれまでになく緊密です。日本とメキシコは、400年の交流の歴史に基づいた特別で緊密な「絆」をこれからも大切にしていきます。

メキシコ地震で捜索救助活動に従事する国際緊急援助隊・救助チーム
写真提供：国際協力機構（JICA）

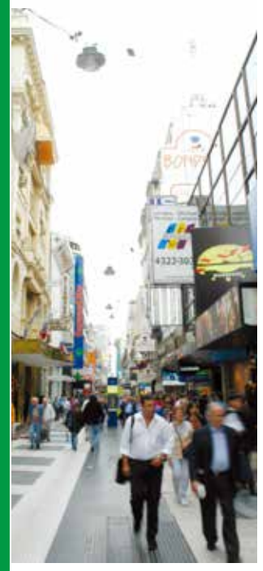
メキシコ人からの感謝のメッセージと緊急援助隊の帽子
©外務省

緊急援助隊の集合写真　©外務省

JAPAN LATIN AMERICA and THE CARIBBEAN

Data File データファイル

世界の中の中南米

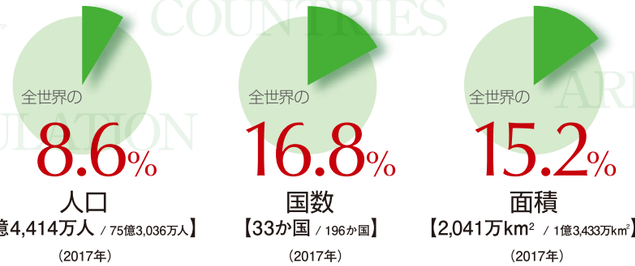


データが語る中南米の「実力」

中南米には、さまざまな産業に必要不可欠なエネルギーや鉱物資源をはじめ、
大豆やコーヒー豆、魚、果物など、私たちの食卓に欠かせない食料資源も豊富にあります。
アマゾンを中心とする広大な森林が、酸素を供給していることも見逃せません。
人類が持続可能な文明社会を築いていく上で、中南米は大きな役割を果たしているのです。

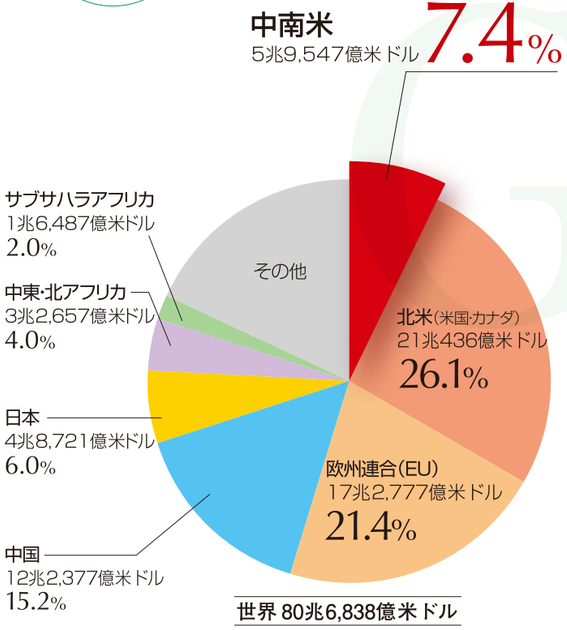
中南米の基礎知識

【出典:世界銀行 World Development Indicators】



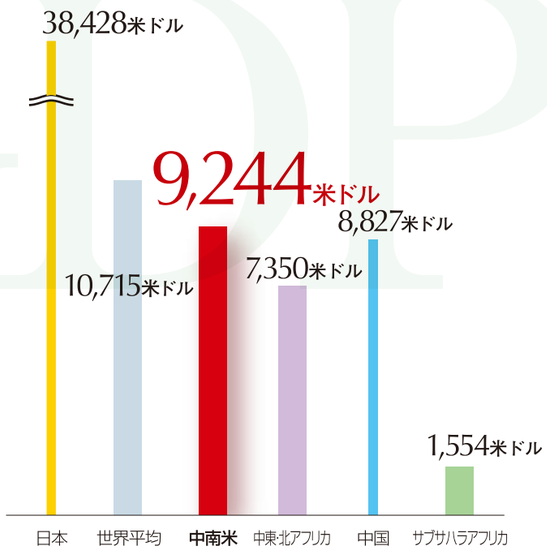
GDPシェア(2017年)

【出典:世界銀行 World Development Indicators】



1人あたりのGDP(2017年)

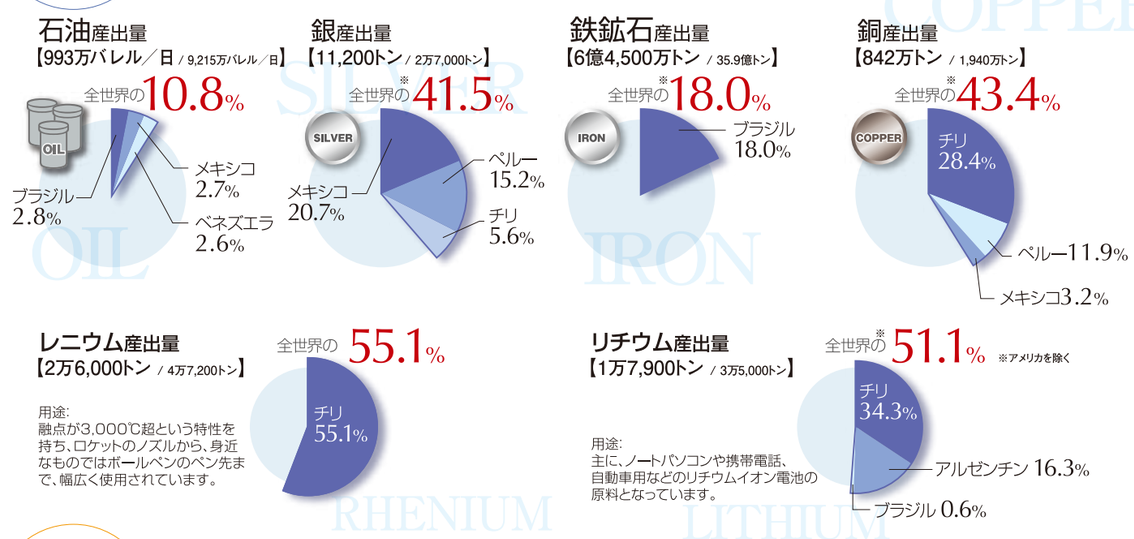
【出典:世界銀行 World Development Indicators】



中南米の資源力(2016年)

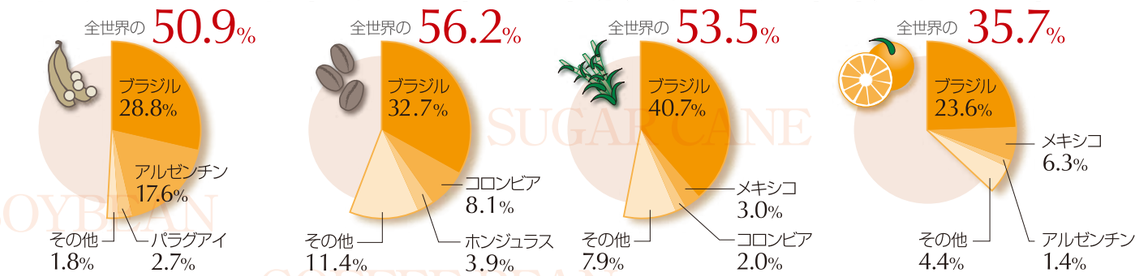
【出典:石油産出量…BP Statistical Review of World Energy June 2016、その他・・・USGS Mineral Commodity Summaries 2016】

※中南米上位3か国までの世界に占める割合



中南米の食料供給力(2016年)

【出典:FAO/FAOSTAT】



写真提供 : メルコスール観光局 ©Nishimura Takeshi ©小笠原亜人矛 ㈱フルッタフルッタ

日本と中南米

「人と人との交流をもとに成熟した歴史的友好関係」

交流の開始　～二つの時代～

日本と中南米の交流の歴史は、今からおよそ400年前までさかのぼります。当時、ともにスペイン領であったフィリピンからメキシコに向かっていた交易船が現在の千葉県太平洋岸に漂着し、その船に乗っていたメキシコの政府高官が徳川家康に謁見したのが、日本と中南米の交流の始まりと言われています。

その後、江戸幕府の鎖国政策によって直接の交流は途絶えましたが、19世紀後半になって、再び中南米との交流を開始しました。日本は、1888年、アジア諸国と締結したもの以外では初となる平等条約をメキシコとの間で締結し、その後、他の中南米諸国とも次々と国交を樹立し、友好関係を築いていきました。

日系人を通じた絆

19世紀後半には、日本人の中南米への移住が始まりました。移住した日本人は、現地社会の発展に寄与し、現在、その子孫である日系人の方々は、政界、財界、学界などのあらゆる分野で活躍しています。

現在も、中南米には約210万人以上の日系人（うちブラジルに9割以上）が住んでおり、居住国と日本との「架け橋」として、中南米地域における親日感情の醸成に大きく貢献しています。

また、最近では、日系人を中心とする中南米諸国出身者約26万人（うち在日ブラジル人約20万人）が日本に在住し、日本の産業を支えており、新たな交流の一翼を担い始めています。

日本と中南米　［移住の歴史］

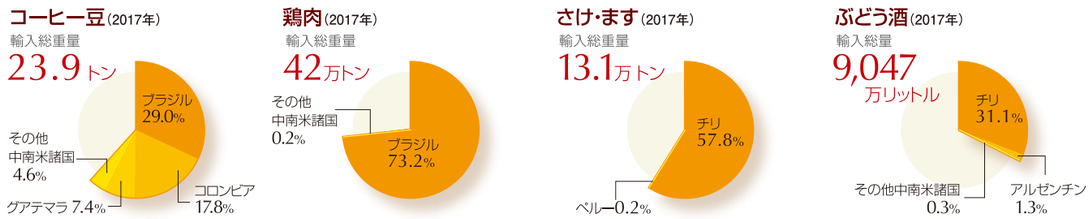
1868年	153人が英国船サイオト号でハワイ（当時独立国）に移住
1893年	榎本武揚（元外務大臣）が海外移住を推進すべく植民協会を創設。ハワイからグアテマラへ132人が移住（中南米諸国への初の集団移住）
19世紀末～20世紀前半	メキシコ、ペルー、ブラジル等への計画的移住開始
1952年	戦後海外移住の再開（ブラジル・アマゾン移住）
20世紀半ば	ボリビア、パラグアイ、ブラジル、アルゼンチンへの移住協定による移住開始 ドミニカ共和国への移住開始

日系ブラジル人タウン大泉町主催の大泉カルナバル

写真提供：大泉町観光協会

暮らしの中の中南米

私たちの暮らしは中南米の資源や食料で支えられています。



【出典:財務省貿易統計】

国際社会におけるパートナー

戦後、日本の国際社会復帰のために中南米は力強い支援を与えてくれました。日本の国連加盟に際しては、当時の中南米地域の国連加盟国全20か国が賛成票を投じました。その後、中南米では軍事政権が相次いで誕生した時期もありましたが、多くの国が民主化を達成し、現在は民主主義や市場経済といった基本的価値観を日本と共有しています。

また、中南米には、気候変動や軍縮、不拡散等の地球規模の問題への対応で日本と行動を共にするパートナーが数多く存在します。

経済関係においても、日本はメキシコ、チリ、ペルーとEPAを締結しており、2015年にはウルグアイとの投資協定への署名を行うなど、連携が強化されています。中南米との経済関係を強化することは、鉱物資源や食料を中南米から輸入する日本にとって、安定した生活を守ることにもつながります。

日本は、中南米諸国との関係を今後とも重視し、様々な分野における二国間、多国間対話を積極的に推進し、更なる協力の可能性を模索していきます。

日ウルグアイ首脳会談（2015年11月、日本）

写真提供：内閣広報室

スポーツ交流から未来へ

2016年、世界最大規模である190万人もの日系人を要するブラジルでオリンピックが開催されました。そして2020年には、そのオリンピックの襷を東京が引き継ぎます。

日本はSport for Tomorrowとして、東京マラソン参加のためのブラジル選手の招へいを始め、様々なスポーツ交流事業を実施しています。また、スポーツ交流の一環として、大学などから寄付された畳を中南米諸国に寄贈し、中南米における柔道普及にも努めています。ブラジルの柔道競技人口は日本を超える200万人にも及びます。

世界で最も古い、ナショナルチームによるサッカーの大陸選手権大会は、中南米で始まったコパ・アメリカです。長きに亘る試合で実力を蓄えた中南米のナショナルチームは世界最高レベルを備えています。

中南米と歴史的友好関係を有する日本は、スポーツ交流を通してこれからも中南米との絆を育み続けます。

2015年5月にブラジルで行われた、講道館による柔道の形の講習会

column

ちょっと「日本と中南米」いい話

写真提供：大玉村

マチュピチュ村　福島の恩忘れず

2015年10月、「空中都市」と呼ばれる世界遺産のマチュピチュ遺跡があるペルーのマチュピチュ村と、福島県大玉（おおたま）村が姉妹都市協定を締結しました。世界各地、たくさんの自治体からくる姉妹都市提携の申し入れを断り続けてきたというマチュピチュ村にとって、世界で初めての姉妹都市が大玉村となりました。マチュピチュ村の開発に尽力した実質的な初代村長が大玉村出身の日本人、野内与吉さんであることから「恩人、野内与吉さんの故郷と真っ先に提携を結びたかった」というのがマチュピチュ村の意向。野内さんは1917年、21歳の時に移民としてペルーへ渡り、マチュピチュ村までの線路敷設に携わった後、何もなかった村に水力発電設備を作り、ホテルを建てるなど観光開発に尽力、指導的立場となり、2年間実質的に村長を務め69年にペルーで亡くなりました。約100年前に海外での成功を目指して移住し、異国のために生涯を捧げた日本人の縁が約46年の時を経て、姉妹都市提携という形で結実しました。

JAPAN LATIN AMERICA and THE CARIBBEAN
Now, We are…
日本と中南米の新しい関係

中南米地域の特徴・ 日本の政策方針

人口6億人、GDP6兆ドルの市場であり、世界有数の資源供給源と しても注目される中南米。
経済成長とともに国際問題における発言力も高まっています。
日本にとって国際社会における重要なパートナーとなっている中南 米の特徴と日本の政策方針を紹介します。

日本は、民主主義・市場経済が定着し、大きな経済的潜在力を有し、さらに約210万人以上の日系人が活躍する中南米諸国を重要なパートナーとみなし、長年にわたる人的交流、貿易・投資、ODA等を通じて培われた伝統的な信頼関係を生かし、「共に発展」、「共に主導」、「共に啓発」を3つの指導理念として、中南米地域とのより一層の関係強化を図っています。

中南米の今

日本は今

中南米地域の現状認識

高まる経済的重要性

6億人の人口を誇る中南米地域の一人当たり所得は、過去10年間で約2.5倍に増加しており、その市場規模は年々拡大しています。また、中南米地域は、日本にとり、鉄鉱石や銅といった鉱物資源、石油といったエネルギー資源、大豆や鶏肉といった食料の重要な供給源です。自由貿易に積極的な国が多いこともあり、生産・輸出拠点として、また、所得の底上げによる成長市場としての中南米地域への注目が高まっており、日本企業の進出も近年安定的に増加しています。

サンパウロの中心街
写真提供:駐日ブラジル大使館 ©Christian Knepper

国際社会での発言力を増す中南米地域

ブラジル、メキシコを始め、経済成長を続ける中南米地域は国際社会での発言力を高めています。また、域内国が中米統合機構(SICA)、カリブ共同体(CARICOM)、南米南部共同市場(メルコスール)といった準地域機構を形成し、協調行動をとることにより国際社会における存在感を増しています。

世界で有数の親日的地域

約210万人以上の日系人の存在や長年の経済協力の歴史もあり、中南米は世界でも有数の親日的地域です。ブラジルには「日本人は信頼できる(Japonês garantido)」といった表現があり、ホンジュラスにおいては幕末の長岡藩における「米百俵」の話が多くの国民の共感を得ています。

対中南米外交政策の3つの柱

共に発展(中南米の経済力の取り込み)

日本は、中南米地域を重視し、経済関係の強化に重点的に取り組んでいます。メキシコ、チリ、ペルーとの間で締結したEPAに代表されるように、日本政府は中南米との間に経済的な枠組を構築することで日本企業の中南米進出を支援しています。また、自由貿易を標榜する太平洋同盟との間では、日本はアジアで最初のオブザーバーとなり、 さらなる経済協力関係強化の可能性を模索しています。

また、日本は中南米諸国から多くの資源を輸入しており、その安定供給は国民の生活を支える上でも重要になっています。日本は、資源エネルギーの安定的確保に向けても取組を続けています。

日本の中南米政策のスピーチをする安倍総理(2014年8月2日、ブラジル)
(写真提供:内閣広報室)

共に主導(国際社会のパートナー)

33か国を擁する中南米地域からは、今やグローバルな課題解決のためのパートナーとして、国際社会における日本のイニシアティブや取組の多くに支持を得ています。気候変動や人権、軍縮・不拡散等の分野で様々な協力が進められており、国際問題への対応において日本と共に行動する国が増えています。

共に啓発(交流と日本の魅力発信)

伝統的に親日的な中南米において、日本への理解を更に深めることを目的とし、在外公館が積極的な広報文化活動を展開しています。具体的には、ロボット等の日本の先端技術や、ポップカルチャー、伝統芸能に関心を抱いた中南米の人々に、規律や勤勉といったより深い日本的価値を理解していただけるよう、働きかけを行っています。また、中南米各国で影響力を高める日系人の方々との連携を更に強化しています。

Forum for East Asia-Latin America Cooperation

東アジアと中南米という世界経済の成長センターを結ぶ
FEALAC
アジア中南米協力フォーラム

アジア中南米協力フォーラム(FEALAC:Forum for East Asia-Latin America Cooperation)は、東アジアと中南米を結ぶ唯一のフォーラムであり、幅広い分野における両地域の交流と協力の拡大を目的とし、日本を含むアジア諸国16か国と中南米諸国20か国の計36か国が参加しています。日本はこれまで、FEALAC若手行政官招へいなどを通じて、両地域の相互理解を促進し、地球規模の課題解決のため、両地域間で協力する上で主導的役割を果たしてきました。日本はアジア及び中南米において伝統的友好関係と強い経済的結びつきを有しており、今後とも両地域の「架け橋」としてFEALACの活動に積極的に取り組んでいきます。

JAPAN LATIN AMERICA and THE CARIBBEAN
Official Development Assistance
日本の政府開発援助

日本の政府開発援助

幅広い領域で展開される
中南米諸国に対する日本の協力。
その中で着実に成果を上げている政府開発援助の
主要な実例を見てみましょう。

アミーゴたちの友情と期待に応える多彩なODAプロジェクト

深い絆で結ばれてきた日本と中南米諸国。その友好関係をさらに発展させていくために、日本政府は、様々な形で中南米への支援を行っています。その1つの柱となるのが、政府開発援助（ODA）による取組です。その支援活動は、教育、保健医療、防災、インフラ整備、環境・再生可能エネルギーなど幅広い分野で実施されており、中南米諸国からも高く評価されています。

小島嶼（しょ）国特有の脆弱性への配慮

カリブ海の島国は、国民一人当たりの所得水準は高いものの、ハリケーンなどの自然災害や気候変動の影響を強く受けるほか、国土の狭さや資源不足から多くの開発課題を抱えています。

2014年7月にカリブ地域を訪問した安倍総理は、こうした小島嶼国が抱える脆弱性を踏まえ、所得水準とは異なる観点から、防災・環境分野で必要な支援を行っていく方針を打ち出し、カリブ諸国から高く評価されました。

教育

教育は社会・経済発展に必要な人材を育て、貧困を削減していくために非常に重要です。日本は、中南米諸国に対し教育施設の建設や教師の知識・指導能力向上のための支援を数多く行ってきています。多くの中南米諸国において教育予算が十分でない中で、無償資金協力を通じた小学校建設は、現地でも高く評価されています。また、指導能力向上のための支援では、多くのボランティア（青年海外協力隊）も活躍しています。

草の根人間の安全保障無償資金協力により
再建された校舎で勉学に励む児童たち（グアテマラ）

写真提供：在グアテマラ日本国大使館

保健医療・衛生

中南米における基礎的な保健医療・衛生の改善のため、日本は各種協力を行っています。中米地域では、同地域特有の寄生虫病であるシャーガス病撲滅のための技術支援を行い、感染リスクを減少させることに貢献しています。また、ハイチやエクアドルなどで医療施設の整備を進めているほか、各国で保健医療サービスの向上のために日本の専門家が活躍しています。

衛生分野でも、日本は安全な飲料水の供給や生活用水の再利用のため、上下水道施設の整備への協力を数多く行っています。

毎年数万人の犠牲者を出すシャーガス病から
ホンジュラスの子供達を守る取組の様子

写真提供：国際協力機構（JICA）/Raymond Wilkinson

防災・緊急支援

地震、ハリケーン、火山噴火など、日本と同様に自然災害の多い中南米地域に対しては、日本の知識と経験を活かした防災、復旧、復興支援が効果的です。日本は、2010年1月のハイチ大地震に対する国際緊急援助隊・医療チーム及び自衛隊部隊派遣、2017年9月のメキシコ地震に対する国際緊急援助隊・救助チーム派遣のほか、近年相次ぐ大型ハリケーンがカリブ海周辺諸国にもたらした被害に対しても、緊急援助物資を供与しています。その他、コミュニティ・レベルでの防災知識の共有や災害リスク削減のための技術協力も大きな成果を上げています。

ハリケーン・マリアの被害に対する緊急援助物資の供与（ドミニカ国）

写真提供：在トリニダード・トバゴ日本国大使館

環境・気候変動、再生可能エネルギー

カリブの小島嶼開発途上国にとって、気候変動による海面上昇は国の存続に関わる深刻な問題です。日本は、カリブ地域全体の気候変動対応能力向上につながる無償資金協力などを行っています。

また、特に中南米諸国からの期待が高い再生可能エネルギー・省エネルギー分野では、例えばコスタリカにおける地熱発電所の建設などを支援し、環境に配慮した開発を後押ししています。

ミラバージェス地熱発電所全容（コスタリカ）

写真提供：在コスタリカ日本国大使館

企業支援・インフラ整備

鉱物・エネルギー資源の宝庫である中南米は、近年、日本企業の生産拠点や巨大市場としても注目されており、多くの日本企業が進出しています。中南米の中小企業・裾野産業の育成支援は、それらの日本企業を支援する観点からも重要です。

医療分野では、心臓カテーテル技術の研修をメキシコ、ブラジル、コロンビア及びアルゼンチンの医師を対象として実施しており、日本企業の技術が中南米地域で普及されるものとして期待されています。

また、中南米諸国の経済開発のための基盤整備の観点から、インフラ整備支援も行っています。例えば、ニカラグアの太平洋側とカリブ海側を結ぶ幹線道路（国際幹線道路）上に位置する橋梁を3本建設するなどの支援を行っており、国内経済の活性化と隣国のコスタリカやホンジュラスを始めとする中米各国との域内貿易が促進されることが期待されています。

この協力で建設されたラ・トンガ橋（ニカラグア）

写真提供：国際協力機構（JICA）

南南協力支援

日本は、メキシコ、チリ、ブラジル、アルゼンチンの4か国とパートナーシップを結び、南南協力を支援しています（三角協力）。かつて、これらの4か国に対して日本が実施していた技術協力を通じて技術の移転がなされた分野において、他の中南米諸国などを対象に研修や専門家の派遣を行っています。例えば、日本と同様に地震・津波などの自然災害の発生頻度が高いチリに対して、防災対策に関する技術協力を実施してきましたが、その成果に基づき、日本とチリは、中南米域内の防災に資する人材育成に取り組む協力を行っています。

建築物の地震挙動について解説する専門家（チリ）

写真提供：国際協力機構（JICA）

JAPAN LATIN AMERICA and THE CARIBBEAN

Culture & Art 文化・芸術

文化・芸術

中南米の横顔紹介

インカ、マヤ、アステカなどの文明が形成されていた中南米地域には、15～16世紀にかけてスペイン人、ポルトガル人などが到来しました。以来、500年以上にわたり、先住民族や白人に加え、アフリカ系、アジア系といった様々な人種の人々がこの土地に集まり、交流してきました。このような長い歴史の中で、中南米独自の多様性に富んだ文化が形成されました。

古代文明・遺跡・観光

中南米には、イースター島のモアイ像やナスカの地上絵、インカ、マヤ、アステカ文明などのスケールの大きな遺跡が各地に点在しています。これらの遺跡は、現在でも先住民や現地の人々にとって信仰の対象であるだけでなく、世界中から訪れる観光客を魅了しています。中でも、ペルーのマチュピチュ遺跡やボリビアのウユニ塩湖は特に日本人に人気があります。また、岡山県BIZEN中南米美術館をはじめとする日本国内の美術館でも、中南米古代文明の出土品を実際に見ることができます。

料理

トウモロコシ、ジャガイモ、トマトや、最近日本でも人気のフルーツ、アサイーなど様々な作物の原産地である中南米。先住民の食文化とスペインやポルトガルなどの食文化が融合して独自で豊かな食文化が生まれました。タコス（メキシコ料理）、シュラスコ（ブラジルの肉料理）、セビーチェ（ペルー等で有名な魚介類のマリネ）など各地で特色のある料理が味わえます。また、テキーラやラムといった蒸留酒も、日本に多く輸出されています。

スポーツ

サッカーは、中南米で国技とする国も多く、一つの「文化」と言えるほど人気の高いスポーツです。国際大会が何度も開催され、中南米出身の選手が世界中で活躍しています。また、カリブ海地域やベネズエラでは、野球が盛んで、アメリカの大リーグや日本のプロ野球界でも多くの選手が活躍しています。旧英領のカリブ諸国ではクリケットが盛んに行われている他、陸上競技においては、ジャマイカやバハマなどのカリブ諸国が優れたアスリートを輩出しています。

音楽・ダンス

中南米の人々の暮らしの中には、歌や踊りがあふれています。人々は歌い、踊ることでその喜び、時に悲しみを表現してきました。中南米で生まれたサンバやタンゴ、サルサ、レゲエ、ルンバ、ソカといったリズム感豊かな音楽様式は、その多くがダンスと一体となって発展し、世界的に知られるようになりました。

中南米の世界遺産数

【141件 / 1092件】

全世界の13%

欧州・北米:47%、アジア大洋州:24%、アフリカ:9%、中東:8%

写真提供：メルコスール観光局 ©Nishimura Takeshi ©小笠原亜人矛 ©K.KANEKIYO（サッカースタジアム）アフロ

JAPAN
LATIN AMERICA and THE CARIBBEAN

ここが気になる中南米!

中南米に関する質問や疑問に
外務省のスペシャリストがお答えします。
「もっと知りたい!」という方は
ぜひ外務省のホームページにアクセス!
サブメニューの「各国・地域情勢」から入って
世界地図の「中南米」をクリックしてみてください。

Q1 メキシコではサボテンが食べられていると聞いたのですが、本当ですか?

A はい、ノパル(ウチワサボテン)が、タコスのトッピングやサラダとして食べられています。繊維質やビタミンが豊富な健康食品です。サボテンはトゲを取り除いて茹でます。少し酸味がありますが、クセはなく、ねばねばしているのが特徴です。実はメキシコの日本国大使公邸で提供しているノパルの天ぷらと漬け物が、メキシコ食材を使った和食として好評です。

Q2 最近ウユニ塩湖で取られた写真をSNS等でよく目にするのですが。

A 「死ぬまでに一度は訪れたい絶景スポット」として世界的に有名になったボリビアのウユニ塩湖。同国を訪れる日本人観光客も近年急激に増え、2015年は5年前と比べて3倍超になっています。しかし世界的な観光客の増加にともなって最近問題となっているのが、ウユニ塩湖に捨てられたゴミ。観光の際は是非ともマナーを守って、これからもウユニ塩湖の絶景を守っていきたいですね。

Q3 野口英世はエクアドルと関係があると聞いたことがあるのですが。

A 黄熱病研究で海外で活動していた野口博士は1918年にエクアドルを訪れ、同地における黄熱病の沈静化に貢献しました。日エクアドル外交関係樹立100周年にあたる2018年は、野口博士の同国訪問100周年でした。実は皆さんがよく目にする1000円札の野口博士のモデルとなった写真は、エクアドルで撮影されたものなのです。

Q4 ペルー料理が世界的に有名だと聞いたことがあるのですが。

A 世界の旅行会社が投票するワールド・トラベル・アワードで、ペルー料理は2012年から2018年まで7年連続で、最も美食を楽しめる国の1位に選ばれています。また2015年世界のレストラン・ベスト50にペルーから3店がランクインしました(メキシコからも2店、ブラジルから1店、チリから1店がランクイン。ちなみに日本からは3店)。ペルーを訪れた際は是非行ってみてはいかがでしょうか。

Q5 最近日本でも話題のゲイシャコーヒーについて教えてください。

A エチオピアを原産地とし、栽培が難しく収穫量も少ないことから希少価値が高いゲイシャ種。その中でもパナマ産ゲイシャ種の独特の風味や香りは世界でも高く評価されています。名前が日本の芸者に似ていること(実際はエチオピアの地方名が由来だそう)、そして日本の有名なコーヒーチェーン店で一杯約2000円で販売されたことでも話題になりました。飲んだことのある方に感想を伺うと、「フルーティーな香りと爽やかな味で、紅茶と間違えるような飲み口」なんだそう。皆さんの口に合うかは分かりませんが、是非一度試してみてはいかがでしょうか。

More information
外務省のウェブサイトでは「中南米」について詳しい解説とデータが掲載されています

外務省ホームページ>各国・地域情勢>中南米
(http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/latinamerica.html)

Security information
外務省「海外安全ホームページ」で各国の治安状況を確認できます

外務省ホームページ>海外安全ホームページ
(http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html)

外務省
編集:中南米局中米カリブ課　発行:国内広報室
〒100-8919　東京都千代田区霞が関2-2-1　TEL：03-3580-3311(代)

2019年2月改訂